

# インフォシス Finacle と LTP の調査により、銀行によるブロックチェーンへの投資加速が明らかに

2018 年からの商用利用に期待

英国 ロンドン(2017 年 2 月 7 日): インフォシス(NYSE: INFY)の完全子会社である EdgeVerve Systems の一部である **インフォシス Finacle** と同社のパートナーである **Let's Talk Payments(LTP)** は、本日、グローバル調査報告書「Blockchain Technology: From Hype to Reality(ブロックチェーン・テクノロジー: 宣伝から現実まで)」を共同発表しました。当報告書によれば、調査対象の銀行家の 80% 以上が 2020 年までにこのテクノロジーの商用利用を見込んでおり、ほぼ半数(50%)の金融機関が既に投資を行っているか、2017 年中の投資を予定しています。今回の発表は、Emirates NBE と ICICI Bank による国際送金と貿易金融におけるブロックチェーン・テクノロジーの導入に関する [最近の発表](#) を土台としています。

金融サービスの専門家 100 人以上を対象としたアンケートを含む今回の調査は、下記の領域におけるブロックチェーン・テクノロジーに対するマインドの理解を目的に行われました。

- 銀行業における現在のテクノロジー理解
- 推し進められている導入戦略と投資
- 業界が取り組んでいる機会と課題

## ハイライト:

- 回答者の 33% が 2018 年までにブロックチェーンが商用利用されると予測し、大多数(約 50%)は 2020 年までには導入が主流となると見込んでいます。
- 調査によれば、2017 年に見込まれるブロックチェーンへの平均投資額は約 100 万米ドルです。
- 大多数の銀行(約 69%)が許可型ブロックチェーンを使って実験を行っています。
- 銀行の約 50% が自行のブロックチェーン能力を強化するためにフィンテックの新事業またはテクノロジー会社のいずれかと連携しており、30% はコンソーシアム・モデルを選択しています。
- 調査によれば、ブロックチェーン・イニシアチブを主導する役員の 51% は最高技術責任者(CTO)かチーフ・イノベーション・オフィサー(CIO)のいずれかです。
- 調査は、ブロックチェーンにより透明性が大幅に向上し、プロセスが全社的に自動化され、決済や取引にかかる時間が削減されることから、ビジネス・エリアにおいてその展開が優先されるだろうとしています。
- さらに、調査は、商用稼働が見込まれるトップ 5 の利用ケースとして、対外支払、デジタル・アイデンティティ管理、決済、信用状処理およびシンジケート・ローンを挙げています。これらの利用ケースは 5 段階評価(1 が最も優先度が低く、5 が最も優先度が高い)で 3.2 以上を得点しています。

詳細な報告書は [こちら](#) からダウンロードできます。

**Finacle 最高業務責任者兼グローバル・ヘッド Sanat Rao** は次のように述べています。「今回の調査は、銀行による銀行業務プロセスの再考を促進するブロックチェーン・テクノロジーの可能性を再確認するものです。テクノロジーは組織内プロセスの自動化、透明性の大幅な改善、既存の業務ベンチマークのリセッ

トにおいて銀行を後押しできます。一部の先進的な組織は既にパイロットを実施して、こうした命題の検証に乗り出しています。次の四半期、業界は、ラボでのパイロットを現実の利用ケースに展開する気運の更なる高まりを体験することになるでしょう。」

## 調査手法

LTP はインフォシス Finacle に代わって、地方銀行から多国籍銀行まで全 75 機関のビジネスおよびテクノロジー・リーダー 100 人を対象に調査を実施しました。

## インフォシス Finacle について

Finacle はインフォシスの完全子会社である EdgeVerve Systems の業界トップのユニバーサル・バンキング・ソリューションです。当ソリューションは、ステークホルダーとの深遠な関係の構築、継続的なイノベーションの牽引、デジタル世界での成長加速において金融機関を支援します。今日、Finacle は 94 か国の金融機関によって選ばれ、8 億 4,800 万以上の顧客にサービスを提供しています。これは世界中で銀行を利用する成人人口の約 16.5% に相当すると推定されます。

Finacle ソリューションは、世界中で、金融機関のコア・バンキング、e-バンキング、モバイル・バンキング、CRM、支払、資金、オリジネーション、流動性管理、イスラム金融、資産管理およびアナリティクス・ニーズに取り組み、対応しています。世界の銀行トップ 1,000 行の評価では、Finacle を使用している銀行はそれ以外の銀行に比べて総資産利益率、資本利益率がそれぞれ 50% および 30% 高く、費用収益比率は 8.1% 低いことが明らかになっています。

詳しくはこちらをご覧ください。 [www.finacle.com](http://www.finacle.com)

## EdgeVerve Systems Ltd. について

インフォシスの完全子会社である EdgeVerve Systems は、革新的なソフトウェア製品を開発し、オンプレミスまたはクラウド・ホスティングのビジネス・プラットフォームとして提供しています。当社の製品は、ステークホルダーとの深遠な関係の構築、継続的なイノベーションの牽引、デジタル社会での成長加速において企業をサポートします。当社は、銀行業務、デジタル・マーケティング、インタラクティブ・コマース、販売業、クレジット・サービス、顧客サービスおよび企業購買などの急速に進化する分野での顧客の成長をサポートします。

今日、金融サービス、保険、小売、CPG、生命科学、製造、通信などのさまざまな業界でグローバル企業が EdgeVerve 製品を使用しています。当社のユニバーサル・バンキング・ソリューション Finacle は 94 か国の金融機関によって選ばれ、8 億 4,800 万人以上の顧客にサービスを提供しています。これは世界中で銀行を利用する成人人口の約 16.5% に相当すると推定されます。

詳しくはこちらをご覧ください。 [www.edgeverve.com](http://www.edgeverve.com)

## LTP について

LTP は、今日広くフィンテックと呼ばれている新しい金融サービスおよび商取引におけるイノベーションのグローバル調査およびコンテンツのプラットフォームです。LTP は、独自のリサーチ、業界日報およびフィンテックの発見およびエンゲージメント・プラットフォームである MEDICI を介してステークホルダーにフィンテック・イノ

バージョンの最新話題や戦略を横断的に提供する最先端に立ってきました。LTP の製品やサービスは、目まぐるしく変化する今日のオープン・イノベーション環境について、分かりやすい形式で産業固有の深く包括的な情報を提供するように設計されています。

LTP が運営する MEDICI は、フィンテック新規事業、銀行およびその他の金融機関、投資家、戦略的ステークホルダーが、LTP アナリストが監督する内容豊富で状況に即したデジタル・プラットフォーム上で出会い、連携したり交流したりすることを可能にします。MEDICI は購読ベースの業界向けサービスで、現在のところ利用するには紹介が必要です。

LetsTalkPayments.com は、新しい金融サービスのニュース、インサイトおよびデータ主導の研究情報を提供する最も急成長中のグローバル・サイトです。LTP は新しいグローバル・フィンテックを定義し、推進します。毎日のニュース、分析所見、ポッドキャスト、ウェビナー、インタビュー、研究報告書、さらには電子書籍までもカバーした対話型コンテンツに取り組む LTP は、業界関係者やビジネス・リーダー、フィンテック投資家および起業家の「社交場」と呼ばれています。

LTP への寄稿者は拡大するにつれて世界中に広がり、消費者金融サービス、融資および銀行からモバイルやクラウド対応の支払や商取引まで、相互につながったこの空間のさまざまなセグメントからの記事を発表しています。さらに、広告における最新のショッピング関連イノベーション、ファッショントクノロジー、スマート・デバイスおよびウェアラブルに関する記事もあります。LTP の購読者は、毎日情報と刺激を与えて読者を魅了し続けるそのコンテンツを、独立性が極めて高く、示唆に富み、常に最新と評価しています。

日刊ニュースレターは 50,000 人が購読しており、今年 LTP のサイトには 5 百万回のアクセスが見込まれています。

無料購読を希望される方はこちらからお申し込みください。 <https://letstalkpayments.com/subscribe/>.

### インフォシスについて

インフォシスはテクノロジー・サービスとビジネス・コンサルティングのグローバル・リーダーです。当社は 50 か国以上の国々のお客様によるデジタル変革に向けた戦略の策定および実行を実現します。エンジニアリングからアプリケーション開発、知識管理および業務プロセス管理まで、当社はお客様が解決すべき問題を的確に把握し、効果的に解決するためのお手伝いをします。全世界で 19 万 9 千人以上のイノベーターから成る当社チームは創造力、あらゆる産業やテクノロジーに関する知識や経験で他とは一線を画し、その能力は当社が取り組むすべてのプロジェクトで活用されます

[www.infosys.com](http://www.infosys.com) を訪れ、インフォシス (NYSE: INFY) がどのようにデジタル時代における企業の成功を支援しているかをお確かめください。

### セーフハーバー条項省略

#### 問い合わせ先

インフォシス 日本支店 マーケティングマネージャー  
安藤 穰 jo\_ando@infosys.com / 03-5545-3257